

# ワンヘルス及び野生動物に関する OIEの取り組み

国際獣疫事務局（OIE）  
アジア太平洋地域代表 釘田博文

人と動物、生態系の健康はひとつ ワンヘルスシンポジウム：2021年02月13日（土）



Organisation  
Mondiale  
de la Santé  
Animale

World  
Organisation  
for Animal  
Health

Organización  
Mundial  
de Sanidad  
Animal

[www.oie.int](http://www.oie.int)

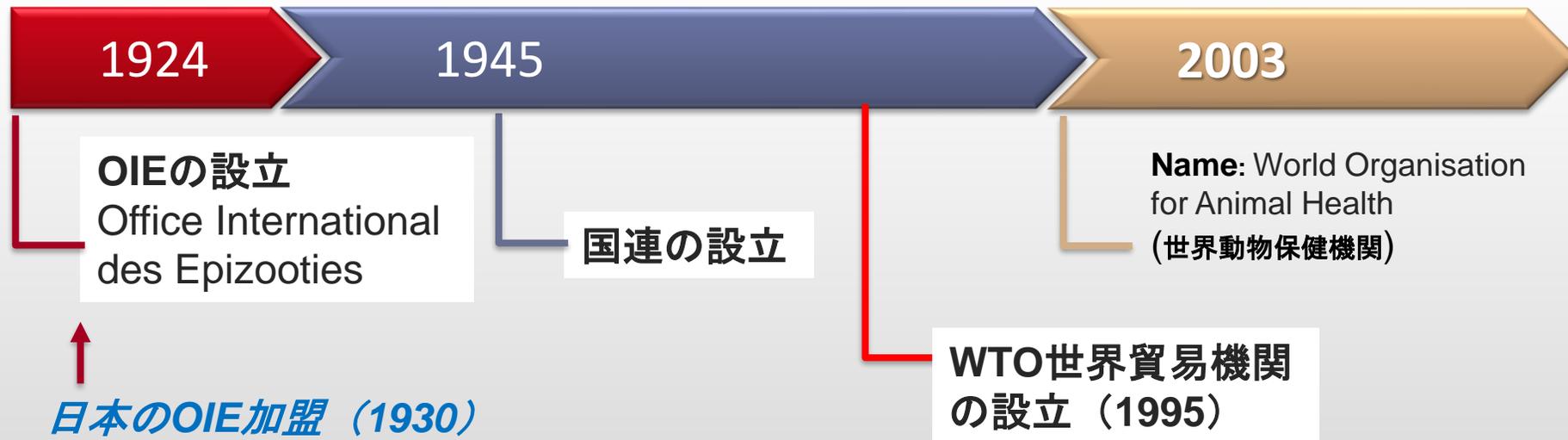
# お話の内容

1. OIEとは？
2. 国際機関とワンヘルス
3. 野生動物に関する取り組み
4. これからの取り組み

# OIEとは？

# OIE（国際獣疫事務局）の歴史と成り立ち

- 1924年（大正13年）設立された政府間国際機関
- 任務：世界の動物の健康と福祉の向上を図ること
- 動物・畜産物の安全な貿易のための国際基準を作成



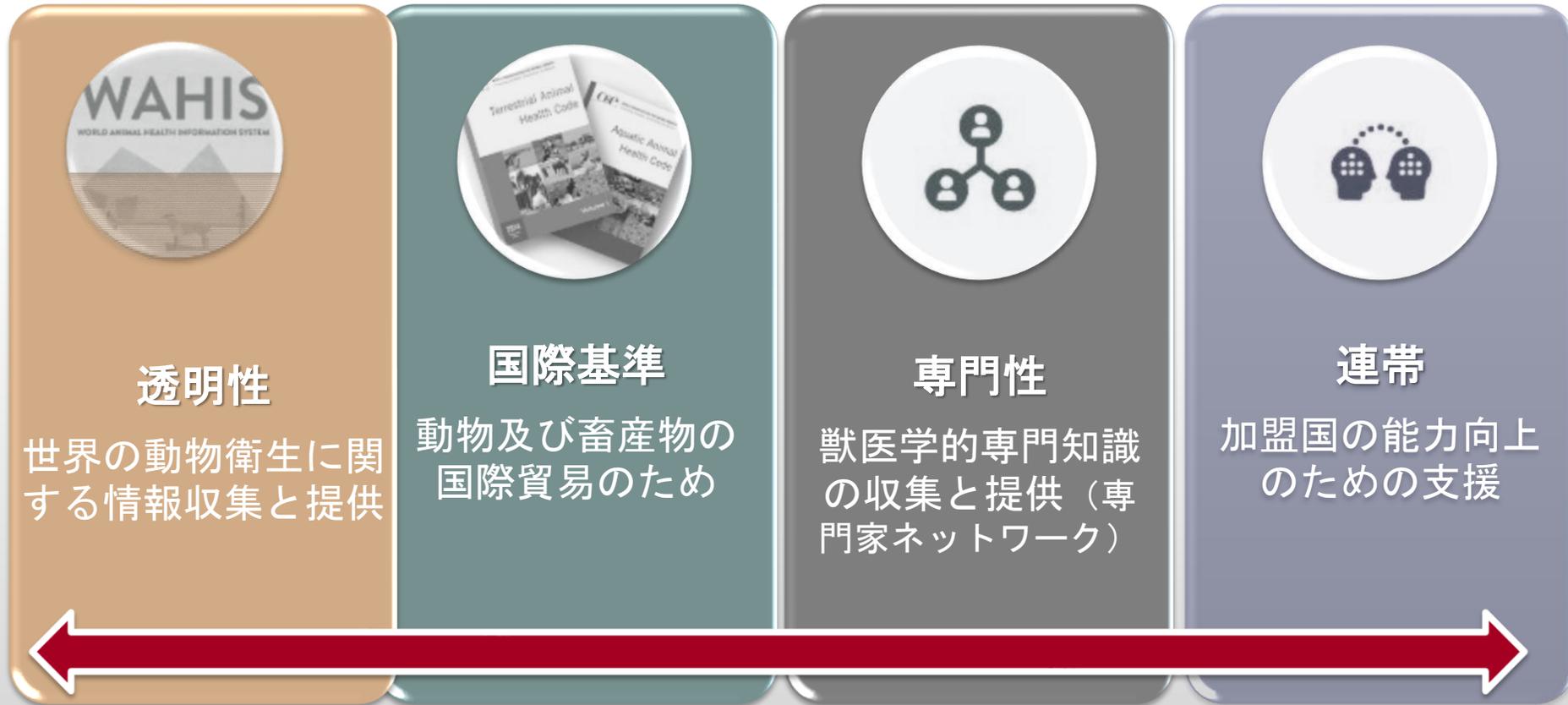
- ◆ 本部はフランスのパリ
- ◆ 加盟国 182

- ◆ 5地域事務所と8準地域事務所
- ◆ アジア太平洋地域事務所（東京）

# OIE活動の4本柱

世界の動物の健康と福祉の向上

*Protecting animals, preserving our future*



**透明性**  
世界の動物衛生に関する情報収集と提供

**国際基準**  
動物及び畜産物の国際貿易のため

**専門性**  
獣医学的専門知識の収集と提供（専門家ネットワーク）

**連帯**  
加盟国の能力向上のための支援

人獣共通感染症を含む

WTOの権限の下での基準作成

動物疾病コントロールのための手法

能力向上のためのツールとプログラム

# 国際機関とワンヘルス

# 国際機関の連携：One Health



Food and Agriculture  
Organization of the  
United Nations



WORLD ORGANISATION  
FOR ANIMAL HEALTH



World Health  
Organization



UN  
environment  
programme

## FAO-OIE-WHOの連携 (Tripartite)

## Tripartite plus (UNEP)

1940年代～

人－動物－環境  
システムの境界  
領域におけるリ  
スク管理のため  
に連携

2010年

3 国際機関の協力を  
関する合意文書

2011年

高級技術会議  
3つの優先分野

インフルエンザ

狂犬病

薬剤耐性

2018年

3 国際機関の事務局長が協力の  
強化に合意

- ・ 食品安全・その他の人獣共  
通感染症
- ・ 人の健康・動物衛生両方の  
政府組織の能力強化



- ・ 世界薬剤耐性啓発週間2020のTripartiteの活動にUNEPが参加
- ・ Tripartite plusによるAMR Work Planを作成



アジア地域のTripartite plusで作成された、“Stop the spread of antimicrobial resistance!” のビデオ

# One Healthの活動

## ■ 世界目標に向けた取り組み

- 狂犬病：Zero by 30
- 薬剤耐性：Global Action Plan for AMR
- インフルエンザ：専門家ネットワーク（OFFLU）
- Tripartite Zoonoses Guide (2019)

## ■ 共同イベント

国連が定めた記念日等の活動を共催し、各国への啓発普及を図るとともに、政府職員や民間団体を対象とした多くのワークショップ、トレーニング等を開催

- 世界狂犬病デー（9月28日）
- 世界抗生物質啓発ウィーク（11月18-24日）
- 世界野生生物デー（3月3日）
- 世界食品安全デー（6月7日）

## ■ アジア地域の3機関調整のためのメカニズム

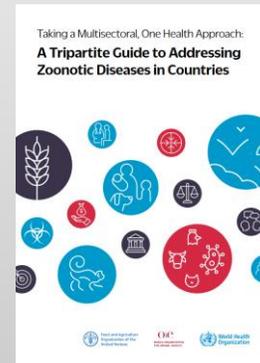
FAO-OIE-WHOの地域事務所間で定期的な会議開催等により、連携強化を促進

## ■ アジア太平洋地域ワンヘルス会議

2010年以降、毎年/隔年でFAO/OIE/WHOの各地域事務所の共同により、地域各国から人、動物、環境部門の専門家の参加により、活動状況のレビュー、最新情報の共有、特定課題に関する討議等を実施



28-30 Oct 2015, Sapporo, Japan



# 野生動物に関する取り組み

## 野生動物に関するOIEの取り組み（1）

# 野生動物ワーキンググループ

- 1994年に設置、常設の専門家グループ
- 野生動物の健康に関する情報をとりまとめ、OIEに対して報告、助言
- FP トレーニングの実施など、OIEの野生動物に関する活動を支援
- 2020年4月
  - ・ 「野生動物の取引と新興人獣共通感染症」に関する声明
- 2020年10月
  - ・ 「野生動物の健康フレームワーク」作成に協力

### 野生動物ワーキンググループのメンバー

Dr William B. Karesh (議長)：米国

Dr Jonathan Sleeman：米国

Dr Marie-Pierre Ryser-Degiorgis：スイス

Dr Marcela Uhart：アルゼンチン

Prof. Koichi Murata：日本

Dr Rupert Woods：オーストラリア

Dr Markus Hofmeyr：ボツワナ



### Statement of the OIE Wildlife Working Group, April 2020

#### Wildlife Trade and Emerging Zoonotic Diseases

The majority of recently-emerging infectious diseases have wildlife origins, among them Lassa, Monkeypox, Marburg, Nipah and numerous other viral diseases. Within the coronavirus family, zoonotic viruses have been linked to the Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) epidemic in 2003 and the Middle East Respiratory Syndrome (MERS) first detected in 2012. The COVID-19 pandemic stemmed from introduction of a novel coronavirus ("SARS-CoV-2") into human populations. While the specific mechanism of SARS-CoV-2 emergence has not been

aforementioned risks. Thus, there is a need to support legal, sustainable and responsible wildlife use by providing sound guidance, standards, and risk assessment and risk management tools.

The OIE is developing guidelines or standards for trade in wildlife based on sound governance and regulatory principles that reduce health risks, and support animal welfare and biodiversity conservation. These standards will result in sustainable and responsible practices in legal trade, transportation, capture, farming, marketing, and consumption of wildlife. The OIE

# 野生動物に関するOIEの取り組み（2）：OIEの専門組織ネットワーク

## OIEの協力センター

- 野生動物の病原体に関する研究、診断及びサーベイランス  
Research, Diagnosis and Surveillance of Wildlife Pathogens
  - 米国： Wildlife Health and Biodiversity  
US Geographical Survey
  - カナダ： Canadian Cooperative Wildlife Health Centre
- 家畜及び野生動物の健康及び管理に関する統合研修  
Training in Integrated Livestock and Wildlife Health and Management
  - 南アメリカ： Faculty of Veterinary Science  
University of Pretoria

- 新興感染症  
New and Emerging Diseases
  - 豪州： Australian Centre for Disease Preparedness
- 新興・再興人獣共通感染症  
Emerging and Re-Emerging Zoonotic Diseases
  - 米国： National Center for Emerging and Infectious Diseases  
US Centers for Disease Control and Prevention
- 人における新興動物病原体の検出・同定及び診断法の開発  
Detection and Identification in Humans of Emerging Animal Pathogens and Development of Tools for their Diagnoses
  - フランス Institut Pasteur

## 国際的な団体等との協力

- 国際自然保護連合: International Union for Conservation of Nature and Natural Resources (IUCN)
- 野生生物保護学会： Wildlife Conservation Society (WCS)
- 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）：  
Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora (CITES)
- 世界自然保護基金： World Wide Fund for Nature (WWF)



## 野生動物に関するOIEの取り組み（3）：野生動物のフォーカルポイント（FP）

- 8つの分野について、**OIE Delegate**（政府代表）をサポートする国内専門家を指名（2008年設置）  
疾病通報、コミュニケーション、食品安全、動物用医薬品、動物福祉、水生動物、**野生動物**、獣医研究所
- 野生動物FPの役割
  - 国内の野生動物専門家の**ネットワークづくり**
  - 野生動物の疾病情報等に関するOIEの連絡窓口
  - 野生動物に関する**OIEの基準やガイドライン**に対する意見とりまとめ
- 課題
  - 実質的な所管部局（環境・野生動物担当）にFPを置いていないケース
  - 環境・野生動物部局が、野生動物の健康・感染症の問題を扱っていないケース
  - OIE DelegateとFPの連携が十分ではないケース

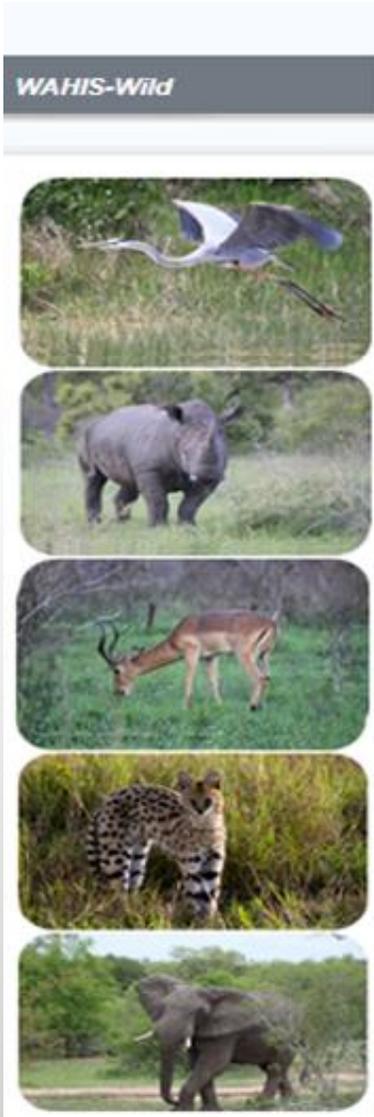


OIE FP研修セミナー  
(2017年7月インドネシア)

OIE Delegateの直接指揮下の部局	15カ国 (47%)
OIE Delegateの指揮に属さない同組織内の別部局	6カ国 (19%)
OIE Delegateとは別の組織	11カ国 (34%)

FPの配置状況（アジア32カ国）

# 野生動物に関するOIEの取り組み（4）野生動物衛生情報システム（WAHIS-wild）



- 1993年に開始
- 野生動物WGが選定した重要な非「OIEリスト疾病」が対象  
(←その発生報告は、動物・畜産物の貿易には何ら影響を及ぼさない)
- 加盟国の任意ベースによる年次報告
- 報告内容：疾病の有無（及び数量データ）
- 課題
  - 報告している国は一部  
2018年報告実績：48カ国

	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013
Australia							
Laos							
Malaysia							
Mongolia							
Nepal							
New Caledonia							
New Zealand							
Pakistan							
Singapore							
Chinese Taipei							
Thailand							

## 野生動物に関するOIEの取り組み（5）野生動物に関する地域の活動

- [Regional workshop: Training of OIE National Focal Points for Wildlife](#) (4-6 July 2017)
- [Regional Expert Group Meeting for Diseases of Poultry in Asia and the Pacific Region](#) (2-4 October 2019) – includes wild bird surveillance
- [Virtual meeting of the SGE-ASF for Asia](#) (21 April 2020) – includes ASF and CSF in wild boar
- [Virtual East Asia Contact Persons Meeting on wildlife](#) (8,9 September 2020)
- [ASEAN webinar on wildlife conservation and zoonotic diseases](#) (19 November 2020)
- [Virtual meeting on Wildlife Health for OIE Members in South Asia](#) (13 January 2021) **(14/1/2021)**
- [World Wildlife Day in Asia and the Pacific](#) (3 March 2021) **(New: 12/1/2021)**



OIE Webinar for World Wildlife Day in Asia and the Pacific  
“The evolving role of veterinarians in wildlife health for One Health”

Wednesday 3<sup>rd</sup> March, 2021  
14:00 – 16:00 (Tokyo, JST)

Join on Zoom or  
YouTube Livestream

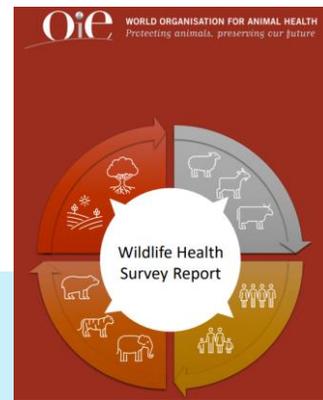
For more information:  
[bit.ly/3bv4POc](https://bit.ly/3bv4POc)

 WORLD ORGANISATION FOR ANIMAL HEALTH  
Protecting animals, preserving our future

# これからの取り組み

# 獣医サービスと野生動物に関する調査（OIE）

（2020年6-9月実施：回答151カ国の獣医当局）



## ■ 獣医サービスが野生動物の健康管理に関与しているか？

Yes 81%

No 19%

獣医サービスの重要な役割

- ① 野生動物の疾病に関するサーベイランス
- ② 野生動物の売買や利用に伴う衛生管理

- 野生動物に関する権限：環境部門、NGOs、大学
- 環境部門は、野生動物衛生に関しては権限がない場合が多い

## ■ 獣医サービスが野生動物に関する業務を行う上で必要な要素

- 野生動物分野で活動している組織との直接的・継続的な連携
- 関連する法的・制度的枠組みの整備
- 政府による継続的な財政支援

## ■ 獣医サービスの野生動物に対する視野を拡げ、野生動物は人や家畜の健康にとって脅威であるとの意識を変えていく必要

# OIEの野生動物の健康管理に関する枠組み

## 全体目標

世界中で野生動物の健康を守り、ワンヘルスを実現する

### 目標 1

OIE加盟国は、野生動物の保護を考慮しつつ、野生動物で病原体が発生し、人・動物・生態系の間で伝染するリスクを管理する能力を高める。

### 目標 2

OIE加盟国は、野生動物疾病のサーベイランスシステム、早期発見、通報及び管理を向上させる。

### 成果 1

ワンヘルス、多部門連携並びに野生動物の健康管理、モニタリング及びサーベイランスのための能力が強化されること

### 成果 2

獣医サービスが効果的な野生動物の健康モニタリング及び管理を実施できるように政治的、政策的及び科学的な環境が改善されること

### 成果 3

野生動物の健康及びワンヘルスの管理におけるリスク経路及び優良実践例に関する理解と知識が向上すること

# OIEの野生動物の健康管理に関する枠組み



## 活動 1

多部門間の調整と連携の促進



## 活動 2

野生動物の健康管理能力の強化



## 活動 3

良質なデータ収集、報告、分析及び利用の改善



## 活動 4

ガイドライン、基準、リスク軽減戦略の最新化、発展



## 活動 5

科学的知識の発展と普及



## 活動 6

普及啓発用ツールの作成と普及



# まとめ

- 人、動物、環境の健康に関わる者が連携して取り組むワンヘルスの考え方は、世界的に広く認識されてきている。
- 国際社会では、FAO-OIE-WHOの3国際機関の連携に加え、UNEPなど多くの国際機関、NGOなどとの連携も進展している。
- ワンヘルスへの取り組みは国ごとに格差が大きく、人一動物の部門間の連携に比べて、環境部門との連携はまだ弱い国が多い。
- 野生動物の健康を守りワンヘルスを実現するためには、環境部門との連携を強化しつつ、各国の獣医サービスが主体的な役割を果たす必要がある。